

▼別ショットの写真



今月の表紙は、幸田町の人口4万人
目認定証授与式での1枚です。授与式
の様子を2ページで紹介しています。

今月の表紙

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G
E-mail:kikakujocho@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)
FAX63-5139

こたの民話

『桜ごぜん』

むかし、深溝の拾石川の南の岸に、桜の木のいっぱいある、とても大きなお屋敷がありました。そして、この長者さんとおく方さんとの間に、それはそれはかわいい女の子が生まれました。その女の子を、村の人たちは、誰いうことなく、「桜ごぜん」と呼びました。桜ごぜんは、周りの人たちの深い愛情につつまれ、蝶よ花よと育てられ、それはそれは美しい娘さんとなりました。

この桜ごぜんが十五になったときのことです。庭の桜が満開になったのを見て、ふっとため息をつかれるではありませんか。ため息に気づいた長者さんとおく方さんが、「娘よ、何か心配なことがあるようだね。話してごらんなさい。」とおっしゃいました。

桜ごぜんは、はじめは話しませんでしたが、とうとう、「実は、川の主が私を来年の春、桜の花が咲いたらお嫁さんにする」というのです。」

というではありませんか。これには長者さんもおく方さんもきもをつぶしました。

いよいよ弥生の四月、庭の桜の花

のつぼみもふくらみ、花がぼっと一輪さきました。

「お父さま、お母さま。いよいよ今夜、川の主が私を迎えにまいります。」

と、桜ごぜんがいうではありませんか。長者さんもおく方さんも、昼間のうちからぴたりと戸をしめ、屋敷の周りを十重二十重と、警護の侍が固めました。

夜になりました。ざわざわっと一筋の風が吹いたかと思うと、急に長者さんもおく方さんも、警護のさむらいたちも、身動きができなくなっていました。そして、一匹の白いへびが、するすると入ってきました。へびは、りっぱな若侍となり、桜ごぜんの手を引いて、川の方へと、夜の闇の中に消えていきました。

その次の朝のことです。これまでなかった乗り物のような形をした岩が、川の中にあるではありませんか。人々はこれを「乗り物岩」と名づけました。そして、はかなく消えた桜ごぜんのめい福をいのって、かたわらに七面天女の像を祭ったということです。

(「こたの民話」の要約)

みんなの作品展!

幸田町小中学校書初め作品展からのセレクトです



幸田中3年
てしまるみ
手島 瑠美 さん



坂崎小6年
まぶち
馬淵みなみ さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課広報広聴Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで。)

西川流の方言

「おじやみ」

「おばあちゃん、なんかやろーよ」
「おじやみ」。この日はかりは、おじやかなおねえちゃんに……
「ほいじや、おじやみやるかん」
「つこつよんこつやん」

「それでは、お手玉しようか。一緒に作ろう」

「こつこつ意味です。」

「お手玉」は、西日本の広い範囲で、「おじやみ」といいます。布切れを継ぎ合わせた袋に、豆などを入れると、「じやみじやみ」と音を立ることから、「おじやみ」と呼ぶようになったといわれ、ただ「じやみ」という地方もあるそうです。

「じやみ」といって、計画などがだめになること、「おじやん」の意味で使われる地方もあるそうです。「おじやん」は、江戸時代、火事の鎮火を伝えた半鐘の「じやんじやん」という音からなったといわれます。でも、これでは、どうして「だめになる」のか説明できませんので、「じやみ」に「お」をかぶせた「おじやみ」から転じたと考えたほうが自然です。「じやみ」はまた、非常に細かいもの、魚でいえば「ぎん(雑魚)」の意味でも使われますので、「豆よりも細かい麦を入れることもある「お手玉」を「おじやみ」と呼ぶようになったかもしれません。

(文・つね)



青春トークリレー
第276走者

すぎうら なるみ
杉浦 成美 さん

須美区在住 21歳 職業 大学生
身長 165cm 血液型 AB型
好きなタイプ 一緒に楽しんでくれる人
好きな芸能人 垣内 彩未

私は12か年皆勤賞を頂いたことをきっかけに養護教諭への気持ちさがさらに強くなり、日々勉強に取り組んでいます。

大学ではボランティアサークルに所属し、子ども会を企画し開催、交流したり、他大学の同サークル員と情報交換会を行ったりして、子どもとの“ふれあい”についても勉強をしています。

このように子どもと関わる中で、子どもへの伝達力、洞察力、判断力、想像力などの重要性を実践的に学びました。また、この経験が小学校での教育実習の際に、私の心の支えとなりました。

将来は、幸田町で養護教諭として子どもたちの健康に携わっていくことが私の夢です。



掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。

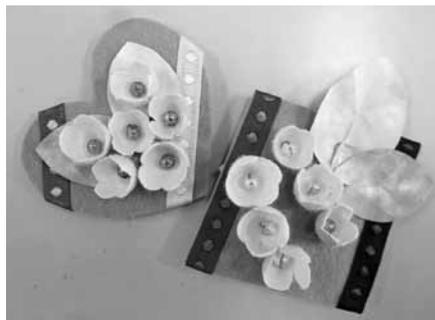


まずは、土台を用意し、リボンの色を決めます。そして、一人一人好きなところだけのコサージュを作りました。

「まずは、土台を用意し、リボンの色を決めます。そして、一人一人好きなところだけのコサージュを作りました。白や黄色の色もきれいで、立派な繭を作ってくれたね。」

『世界にひとつだけ』

「某月某日
〜菱池保育園〜
わんぱくだより



当にきれいだね。」と、蚕に感謝の気持ちをつぶやきながら、作る姿も見られました。

出来上がったコサージュは、どれも個性溢れるすてきな作品です。卒園式当日、子どもたちの胸にキラキラと輝いていることでしょう。

ちよと
編集者の
ひびく

小学生の娘になわとびの二重跳びを見せようと思ひ、全力で挑戦だけど2回跳ぶのが精一杯だった編集者のKです。

今年の新春駅伝・ファミリージョギング大会は、自転車が強風におおられて倒れそうになるぐらい風が強く、ランナー泣かせの天候でした。ジョギングの部は親子で参加する姿が多数みられ、まさにファミリージョギングの名にふさわしい大会でした。駅伝で総合優勝したのは、一般の部に参加したチーム「いなよび」でした。愛知駅伝幸田町代表選手を中心としたメンバーで、2位のチームに2分近い差をつけて圧倒的な強さでの優勝でした。小学生男子で優勝した幸田小と小学生女子で優勝した深溝小の両チームにも愛知駅伝の幸田町代表選手がメンバーとして参加しており、代表選手として愛知駅伝に出場した経験が、さらなるランナーとしての飛躍に繋がったのではないかと思います。

また、今月号の12ページでこうた尻揚げまつり写真コンテストの結果をご紹介しています。まつり当日は多数のカメラマンが会場に詰め掛けており、みんな少しでも良いアングルをおさえようと激しいポジション争いが繰り広げられていました。今年も完敗でした(泣)。来年はリベンジできるように頑張ります。それでは、卒業式でお会いしましょう。(K)